

令和 5(2023)年度 法学類演習シラバス(掲示用)

授業科目名: 法理学演習	担当教員名[ローマ字表記]: 足立 英彦[ADACHI Hidehiko]	
曜日・時限:	対象学年: 3・4 年	募集人数: 12 名
授業の主題・目標: 刑法と法哲学		
<p>授業内容:</p> <p>「若い法律家のたましいを法学に親しませる最良の方法は、彼らに偉大な法律家の伝記を読ませることである。」(Gustav Radbruch)</p> <p>2023 年度の法理学演習では、最初に、グスタフ・ラートブルフ『一法律家の生涯』(ラートブルフ著作集第 7 巻)を読む予定です。この本は、ドイツ近代刑法学の父と呼ばれ、罪刑法定主義の原則を刑法理論の中に確立したことも有名なパウル・ヨハン・アンゼルム・フォン・フォイエルバッハ(1775-1833 年)の伝記です。彼が起草したバイエルン刑法典(1813 年)は、ドイツ刑法典に多大な影響を与え、そのドイツ刑法典は日本の刑法典に多大な影響を与えているため、フォイエルバッハの思想を知ることは、今の日本の刑法・刑法学を理解するためにも有用です。また、この伝記の著者であるラートブルフ(1878-1949 年)は、新派刑法学を打ち立てたフランツ・フォン・リストの弟子で、ワイマール共和国の司法大臣の任にあった時に死刑廃止を含む先進的な刑法改正案をまとめた刑法・法哲学者です。その改正案は廃案になったものの、戦後、彼の死後に一定の影響をドイツの刑事法に与えました。2023 年度のゼミでは、これらの偉人の思想から学びつつ、刑法や刑の本質について考えたいと思います。</p> <p>すべての法学類生の履修を歓迎します。なお、当ゼミでは卒論(6 単位)を書いていますので、とくに総合法学コースの方には、選択必修枠も埋められて一石二鳥ではないかと思えます。</p>		
教科書・教材: 菊池栄一・宮澤浩一訳『ラートブルフ著作集第 7 巻 一法律家の生涯』(東京大学出版会、1963 年)	参考書:	
関連科目: 刑法、刑事政策	評価の方法: 出席とゼミへの貢献度(報告と発言)、レポート(ゼミ 1 年目の方のみ)を基に評価します。	
履修上の注意事項や学習上の助言: 1 年目の最後にレポートを、2 年目の最後に卒業論文を提出していただきます。過去の卒業論文は私の Web(https://law-kanazawa.info/theses/)に掲載しています。		
<p>学生からの演習に関する質問への対応方法:</p> <p>1 随時可能 2 オフィスアワー(授業期間中の火曜昼休み) 3 E-mail(hadachi@staff.kanazawa-u.ac.jp) 4 電話(076-264-5383) 5 その他(オフィスアワー以外も在室時は対応します。今年度は月 5 限に 314 教室でゼミを行っています。見学歓迎。)</p>		
<p>受講者数調整方法:</p> <p>定員を超えた場合は志望理由書と成績に基づき選考します。</p>		